

<実践報告>

商品選択時の判断力育成を目指した家庭科授業研究
ーシャープペンシル購入場面の疑似体験よりー

市川幸奈 信州大学大学院教育学研究科

福田典子 信州大学学術研究院教育学系

A Home Economics Class Development for Cultivating the Ability to Judge in Choosing Merchandise: A Simulated Experience in Purchase Scenes of Mechanical Pencils

ICHIKAWA Yukina: Graduate School of Education, Shinshu University

FUKUDA Noriko: Institute of Education, Shinshu University

研究の目的	身近な文具の使用, 実物観察, 班活動を取り入れた授業による商品選択時の判断力育成を目指した授業開発を行う。
キーワード	家庭科 商品選択 判断力 大学生
実践の目的	身近な文具, 実物観察, 班活動を取り入れた授業による大学生の学習効果や課題を明らかにし, 中学生向きの授業開発に生かす。
実践者名	市川幸奈
対象者	信州大学教育学部家庭科教育コース3年生(3名)
実践期間	2020年2月
実践研究の方法と経過	商品選択時の判断力育成を目指した授業開発を行い, 教員養成学部家庭科コース3年生3名を対象に実践研究を行った。授業時の成果物や討議の記録, その後の授業に対する自由な意見交換を通して, 教材及び指導案の改善を試みた。
実践から得られた知見・提言	身近な物の使用や実物観察は適切な商品選択学習に有効に働いた。また, 班活動による意見交換は, 商品選択時の観点の多様性への気付きに繋がった。今後はICTの効果的な利用に向けた検討・改善や家庭学習と繋げた授業展開も検討予定である。

1. はじめに

1.1 研究の背景

消費者庁「消費者教育の推進に関する基本的な方針」(2018)は、「日常生活において、利便性の向上が追求され、大量生産、大量消費、大量廃棄が行われている経済社会において、資源やエネルギーの消費量も増加の一途をたどっている」ことを指摘しており、同資料において「自らの消費が環境、経済、社会及び文化等の幅広い分野において、他者に影響を及ぼし得るものであることを理解し、適切な商品やサービスを選択できる力」の育成を示している。また平成 29 年 3 月、小学校及び中学校学習指導要領改訂により、小学校学習指導要領家庭編及び中学校学習指導要領技術・家庭 家庭分野の「C 消費生活・環境」では、物の購入や選択に必要な情報の扱いに関する文言が新たに明記され、商品選択や購入に関わる学習の充実が図られた。以上より、大量に物を生産・消費・廃棄している現代では、自分の消費行動が周りに与える影響を意識し、適切に物やサービスの選択が出来る賢く責任ある消費者の育成が求められていると言える。

先行研究において、商品選択に関する授業実践は多数行われている。例えば山下・重川(2019)は、商品選択の観点の多様性への気付きは、児童の思考を変容させる一因となとした。このように観点の広がり、消費に関する認識に大きな影響を与えたと考えられる。坂本ほか(2017)は、身近な商品を教材として用いることで、児童が自分の生活と結び付け、実感を持ちながら主体的に活動に取り組むことが出来るとした。またシェイファーほか(2018)は、身近な物について自分の消費行動と社会との関わりに注目して考えることは、自分なりの選択眼を持つことに繋がるとした。このように、身近な物の使用は、実生活における問題を明確化させ、自らの認識や行動を再構築しようとする姿勢を生み出すと言える。さらに菱村(2017)は、商品の表示を読み取る活動は、有益な商品かを判断する批判的意識をもつ重要性に気付かせることが出来るとした。児童生徒は所持金の少なさから、普段の商品選択では主に価格を重視していると思われるため、学習を通して批判的思考力の向上を図ることは、児童生徒のより良い消費行動に向け有効であると考えられる。

以上より、商品選択に着目した授業実践では、多様な観点や価値観を身に付けるための活動の工夫や検討がなされていることが分かる。しかし、物で溢れた社会において、適切な商品選択が出来る消費者の重要性が高まっている今、商品選択時の判断力育成を目指した学びは、より一層充実が図られる必要があると言える。

1.2 目的

多くの物に囲まれながら日々消費をして生きている生徒にとって、適切な商品選択が出来る消費者の育成を目的とした授業は欠かせないだろう。特に中学生は、小学生よりも行動範囲が広がり、自分で商品選択や購入をする機会が増える。そのため、中学生という時期に、改めて消費者としての自覚と、自らの消費行動を問い直すような授業が必要である。

そこで本研究は、中学生対象に、より良い商品選択に向けた商品選択時の判断力育成を目指した授業開発を行った。中学生対象の前段階として教員養成学部家庭科教育コース 3

年生3名を対象に検証授業を実施し、その後授業に関する自由討議を行った。以上の検証授業及び学習者の成果物、学習者相互の討議記録、授業に対する意見交換等より得られた知見を基に、より学習効果が期待される中学生向きの教材及び指導案の開発を目的とした。

2. 方法

2.1 実践の方法

授業参加者は、家庭科教育コース学部3年生女子3名（以下、学生a, b, cとする）であった。日時は令和2年2月3日の14:40～16:10（授業50分、授業に対する意見交換40分）であった。参加者には授業の実施とその主旨のみを事前に伝え、協力を得た。授業後は実践者と授業参加者で自由討議を行った。

2.2 授業内容

(1) 単元名

「より良い商品選択について考えよう」

(2) 題材設定の背景

本授業ではシャープペンシルを題材として取り上げた。シャープペンシルは中学生が性別を問わず毎日使用する物であり、生徒のお小遣いで購入可能な価格である。またデザインや機能等が多様であることから、商品選択時の着目点が多い商品であると考え、

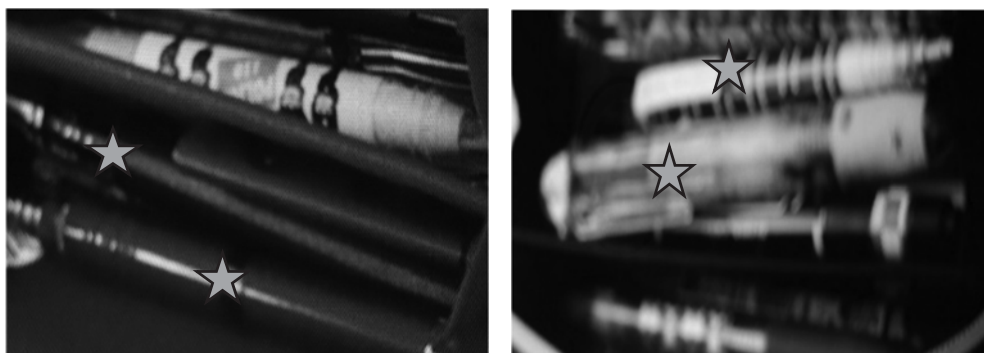


図1 中学生が使用しているシャープペンシルの例

図1において星マーク(★)の付いているものがシャープペンシルである。このように、中学生はデザインや機能が多様なシャープペンシルを複数所持していることが分かる。以上より、シャープペンシルを用いた授業は有効であると考え、授業開発を試みた。

(3) 主眼

普段の商品選択では主に価格を重視している生徒が、商品選択の基準となる「選択の観点」を用い、場面に合ったシャープペンシルを選ぶ活動を通して、購入の目的に合った選択は価格だけでなく、多様な観点に着目して選択する重要性を理解することが出来る。

(4) 学習指導案

図2に学習指導案を示した。

段階	学習活動	教師の指導・援助	時間
課題把握	1 本時の学習問題を設定	◇買い物に行ったとき、欲しい商品の種類が沢山あった場合、何を比較して1つを選ぶのかを問う。 学習問題：商品選択で重要なのは価格だけだろうか。 ◇学習問題に対する考えの発言を促し、それぞれの発言から抽出されたデザインや軽さ等のキーワードを【選択の観点】とし、学習課題を設定する。 学習課題：選択の観点を使い、場面に合った商品選択をしてみよう。	10分
追及実践	2 場面に合ったシャープペンシルを選ぶ(活動1)	◇4本(A～D)のシャープペンシルを提示し、この中から提示した場面に合うものを1本選択する活動を行う。選択の観点と情報シートを基に、個人及び班活動を通して選択し、その理由もワークシートに記入する。 ◇各4本の情報シートも配布する。実物は1セットしかないので、黒板前に置いておく、適宜見て触れるようにする。 ◇活動終了後、選んだ物とその理由の発表を促す。	20分
／整理発展	3 MY 選択の観点 BEST3 を考える(活動2)	◇上記の活動を踏まえ、個人で「今自分が欲しい〇〇を買う」という場面設定と、その場面における『MY 選択の観点 BEST3』を考えるよう伝え、その後発表を促す。 ◇活動終了後、今回の授業に加え、商品選択には使用者と商品の相性や商品としての良さ、付加価値にも考慮して選ぶ必要があることをパワーポイントで提示する。	15分
	4 本時の振り返り	◇本授業より、商品選択の観点や目的に応じた選択、購入について思ったこと、今後どのような商品選択を心がけたいか等を記入するよう伝え、記入後発表を促す。	5分

図2 学習指導案

(5) ワークシート

図3にワークシートを示した。

より良い商品選択について考えてみよう！

本 姓 名前 _____

【学習問題】商品選択で重要なのは価格だけだろうか。
自分の考えを書いてみよう。

【選択の観点】

【学習課題】

(1) 各場面にあったシャープペンシルを、シャープペンシル(A～D)から1つ選び、欄頭に○をいし、【選択の観点】を踏まえて理由も書いてみよう。最初に左欄を両面考え、その後、互で話し合いながら右欄を考えよう。

① 小学校高学年(女子)が、国語の課題で30分間を書く時に使用するシャープペンシル

私は(A B C D)を選びました。	私の理由は(A B C D)を選びました。
理由	理由

② 70代の高齢者(男性)が、毎日15分日記を書く時に使用するシャープペンシル

私は(A B C D)を選びました。	私の理由は(A B C D)を選びました。
理由	理由

③ 家族みんなが、家に電話がかかってきた時にメモをとるために使用するシャープペンシル

私は(A B C D)を選びました。	私の理由は(A B C D)を選びました。
理由	理由

(2) ラーキー番房(いいものを買う)として、どんな観点に着目して選択・購入したいですか？
「どこ」で買う「何」を「何のために」欲しいのか記入した後、【MY 選択の観点 BEST3】を、シャープペンシルの選択の仕方を書き換え、自由考えてみよう。

今は _____ で使う(どこ) _____ を(何) _____ 欲しいので(何のために) _____

【MY 選択の観点 BEST3】

No. 1	No. 2	No. 3

に着目して選びたい！

(4) 授業の振り返り

図3 ワークシート

図3 ワークシートの左下(1)各場面に合ったシャープペンシルを選ぶ活動では、以下の表1に示した3つの場面を提示した。

場面に合った選択に重点を置いた活動となるよう、各場面の年齢、性別等の設定に幅を

持たせた。また、個人活動と班活動を取り入れたが、班活動は自分と班の意見の合致ではなく、他者の考えに触れ各々の視点の広がりをもつことを目的とした。

表 1 商品選択の活動において提示した 3 つの場面

場面① 小学校高学年（女子）が、図工の宿題で 30 分絵を描く時に使用するシャープペンシル
場面② 70 代の高齢者（男性）が、毎日 15 分日記を書く時に使用するシャープペンシル
場面③ 家族みんなが、家に電話がかかってきた時にメモをとるために使用するシャープペンシル

右側中央(2)MY 選択の観点 BEST3 の活動では、(1)に引き続き場面に合った選択を意識するため、どこで使う何を何のために欲しいかの記述欄を設けた。購入の目的を明確化することで、より一層商品選択は価格だけが重要ではないことへの気づきを引き出すよう配慮した。

(6) 配布資料

活動時は、各シャープペンシルの特徴等の詳細な情報を知ることによって、より適切な比較、判断及び選択ができるのではないかと考え、図 4 の情報シートを作成し、配布した。

【シャープペンシル情報シート】
一画面に合ったシャープペンシルを選んでみよう

【ABCD の共通事項】
・芯の太さ…0.5mm (日本語書くのにピッタリで、一般的な筆記に最適)
・芯の濃さ…4B (Hard Black (硬く濃い黒))

A

＜筆記用シャープペンシル＞
・特徴
・軽くなめらかな書き味。
・本体は短めだが、指にフィットする計算されたフォルム。
・グリップ
グリップに段差がないため、安定した握りが可能。
・重さ
10.0g でやや軽く、動かしやすい。

B

＜筆記用シャープペンシル＞
・特徴
・芯折れ防止機構付きで、強い筆圧をかけて先端にクッション機構が動き芯折れを防ぐ。
・筆記用よりも壊れにくい。
・製図用だが、筆記用として使用可能。
・グリップ
金属製が多いため、筆圧が強い人や一般的な筆圧の人におすすめ。
・重さ
8.3g で軽いので、手への負担が少なく、動かしやすい。

C

＜筆記用シャープペンシル＞
・特徴
・10 万回以上でもこわれにくい。
⇒カバン、ノート、ポケットなど様々なところにしっかりはさむことができ、ハードな動きでも落ちない。
(※パイロント社試験データ)
・芯の出し方
フリップ＆ノック式
⇒フリップ機構は、擦るだけで芯が出るため、持ち替えることなくノンストップ筆記が可能。
・重さ
フリップは金属パイプを使用しているため、重さは 19.2g だが、扱いやすく、しっかりと書くことができる。

D

＜多機能ペン＞
・特徴
・1 本で多機能
⇒1 本で黒・青・赤・緑・シャープの 5 機能が使えるため、1 本でとても便利。
・バインダー・クリップ
⇒可動式バインダー・クリップにより、厚みのあるボード等にもはさめ、クリップ折れを軽減。
・芯の出し方
クリップをスライドさせ、続けてノックすると芯が出る。
・重さ
15.3g でやや重いが、扱いやすく、力を入れなくてももしっかりと書くことができる。

図 4 授業で実物提示した 4 種のシャープペンシル情報シート

(7) 授業後半に提示した資料（パワーポイント）

活動に加え、商品選択の観点の広がりの一助となるよう、使い心地や商品の付加価値について(図 5)、各シャープペンシルの環境負荷への配慮について(図 6)の説明をした。

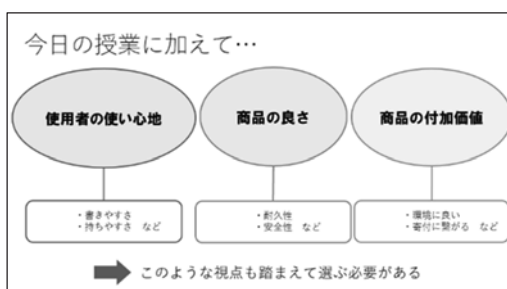


図 5 商品特性としての使い心地、商品の機能性、その他の付加価値

ちなみに…

再生材使用率 71%
軸・クリップ (再生 PC)

軸等に再生材を使用

株式会社サクラクレパスは、環境に与える負荷をできるだけ減らすように配慮したシステム [ISO14001] 環境マネジメントシステムの認定を 2000 年に取得。

図 6 商品特性としての環境への配慮

3. 結果

3.1 授業時に学習者によって記入されたワークシートの分析

(1) 導入

【学習問題】から【学習課題】までの記述を分析する。【学習問題】「商品選択で重要なのは価格だけだろうか」に対する学生3名の記述を以下表2に示す。

表2 学生の記述内容

学生a	安いのは大事だけど、安すぎて不良品とかの可能性があるのでよく見て選ぶことが大切だと思う。
学生b	安いのも大事だけど、すぐ壊れたりしたら無駄になる。長持ちするか、長く使い続けられるか。必要かどうか。
学生c	価格だけではなく、使いやすさとか安全性とかも大事だと思う。100円ショップの商品とかは安いけどすぐこわれてしまうので、何度も買わないといけなくて結局高くなってしまふことがある。

3名とも価格や安さは大事だが、安いものは長く使い続けることが出来ないと認識しており、安全性や耐久性も視野に入れた方が良いという意見が出たと考える。

(2) 場面に合ったシャープペンシルを選ぶ〈活動1〉

活動1の記述を分析する。各場面で選択されたシャープペンシルを表3に示す。

表3 各活動において選択されたシャープペンシルの種類

場面	選択	学生a	学生b	学生c
①	個人	A	A	B
	班	A		
②	個人	C	B	A
	班	C		
③	個人	C	C	C
	班	C		

場面①における個人の選択はA又はBとなった。場面①の設定より、3名とも手への負担を考え、重量に着目し、軽いA又はBを選択したと言える。班の選択では、学生cの理由記入欄には握りやすさの記載があったが、これは学生a及びbが個人の選択でAを選んだ理由の「Aは指にフィットして動かしやすい」「握りやすく軽い」を受けて書かれたものと考えられる。このことより、軽さと握りやすさを兼ねているAの方が適していると判断し、班としてはAを選択したものと推察された。

場面②における個人の選択は3名とも異なった。理由には、学生aは日記帳に挟めるペン、学生bは高齢者の握力や筆圧に合ったもの、学生cは手先が不器用になっても安定した筆記ができるものを挙げていた。場面②の設定を受け、それぞれ重視した視点が異なり、違うシャープペンシルが選択されたのだろう。しかし、3名とも実用的且つ高齢者の特性に配慮したものを選択したことから、全員使用者に合わせた選択が出来ていたと言える。班の選択の理由では、日記帳に挟めることと、グリップがあることが挙げられた。情報シートでCの特徴は「10万回はさんでもこわれしない」であり、毎日日記を書く場面から耐久性を重視し、Cを選択したものと推察された。

場面③は、個人及び班の選択共に C であった。理由には、場面③は片手が塞がっていてもすぐにメモがとれるものが便利であるとの記載があった。このことより、場面③では 3 名とも機能性や利便性を重視し、フレフレ機構(振ると芯が出る機能)のある C を選択したものと推察された。

以上、(1)の活動に関する記述より、個人の選択では 3 名とも各場面で重視すべき点を判断し、状況に合ったものを選ぶことが出来たと推察された。また班の選択では、個人の選択と異なる回答となった学生もいたが、この学生の班の選択の理由記入欄には、個人の選択の理由記入欄には無かった視点が追記されていた。このことから、班での意見共有により新たな観点を獲得し、より適切なものを選択する判断を下すことが出来たと考えられる。

(3) MY 選択の観点 BEST3 〈活動 2〉

活動 2 の記述を分析する。3 名の学生が記載した内容を表 4 にまとめる。

表 4 学習者が個別に設定した購入希望品における選択の観点と優先順位

	欲しいもの	MY 選択の観点 BEST3		
		No. 1	No. 2	No. 3
学生 a	外出時に歩きながら聴くためのイヤフォン	<u>使いやすさ</u> (イヤフォンのフィット感)	<u>品質</u> (音質の良さ)	<u>機能面</u> (コードの絡まりにくさ)
学生 b	外出先で好きなお茶を飲むための水筒	<u>使いやすさ</u> (洗いやすく、茶こし付き)	<u>耐久性</u> (長持ちする)	<u>価格</u> (安いほうが良い)
学生 c	料理で肉・魚などを楽に切るための包丁	<u>品質</u> (切れ味が良い)	<u>耐久性</u> (錆びたり、刃こぼれしない)	<u>使いやすさ</u> (持ちやすい大きさ)

学生 a は、歩きながら聴くため、耳へのフィット感を重視し、使いやすさを 1 番にした。また 3 番目のコードの絡まりにくさも、歩きながら聴くことを踏まえたものであろう。学生 a は、使用場面の特性を考慮しながら選択の観点を考えることが出来たと言える。

学生 b は、使用中や使用後の使いやすさを重視した。購入の目的の明確化が、具体的な使用場面を想起させ、より適切な商品選択を促したのではないかと考える。

学生 c は、楽に切りたいという願いから品質が 1 番になったと考える。また、使いやすさより耐久性が重要視されたのは、楽に切りたい場合、錆び等は楽に切ることを妨げることから、より目的に合致した観点での順位となったのではないかと考えられる。

以上より、3 名とも使用場面に即した観点を考えることが出来ていた。また全員が使いやすさを挙げたことから、商品の選択・購入・使用に利便性の観点は不可欠だと言えよう。しかし、どのような使いやすさを重視するかは人によって異なる。そのため、自分に必要な利便性を具体化することによって、より目的に合った選択が出来ると言える。

(4) ふり返り

ふり返りの記述を分析する。3 名の学生が記入したものを以下表 5 に示す。

表 5 より、値段以外の観点を踏まえた商品選択の重要性が理解できたと言える。また、選択の観点は人によって異なることから、欲しい物や使用場面と自分の価値観を照らし合わせ、より適切な観点で商品選択をする必要性が分かったと言える。さらに、3 名とも環境に関する記述が見られた。これは最後に行った補足説明で環境への配慮について触れた

ため、ふり返りで環境に関する内容が書かれたと考えられる。本授業では、環境を重点的に扱ったわけではなかったが、最後の補足説明によって、環境に配慮した商品選択も重要であることへの気付きを促すことが出来たのは効果的な部分であった。

表 5 授業後の学び（自由記述）

学生 a	商品を選ぶ時には人それぞれの観点があると分かった。これからは使いやすさや耐久性に加えて環境への影響まで考慮した消費者になりたい。
学生 b	値段もちろん大切だが、使いやすさや耐久性など、使う人それぞれが選ぶ基準を持っていておもしろかった。環境については考えたことがなかったので、新しい観点を知れました。
学生 c	値段が大切だと思っていいけれど、使いやすさや品質も大事であるとわかった。また、環境に配慮されていたり寄付につながることでいろいろなところに良い影響があるということ初めて知ったので、そういう商品を選んでいきたい。

3.2 授業に関する学習者からの指摘事項

授業後、授業者と授業参加者との討議において出された意見を以下表 6 にまとめる。

表 6 学習者からの指摘事項

授業部分	指摘事項
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・【学習問題】「商品選択で重要なのは価格だけだろうか」は、価格だけが重要だと思っている人が考えを記述しづらいため、「商品選択の際に重要なのは何だろうか」の方が良いのではないか。 ・選択の観点の重要性を強調するためにフラッシュカードを用いると良い。
場面に合ったシャープペンシルを選ぶ〈活動 1〉	<ul style="list-style-type: none"> ・個人活動の進度は人によって異なる。また、班の話し合いは時間が足りなかったため、時間配分の再検討が必要である。 ・班活動は複数回答可にすることで、より意見共有を重視した活動になる。 ・班の選択やその理由は、画用紙等にまとめ、発表時は黒板に貼ると分かりやすい。 ・実際のクラスで授業を行う場合は、実物が 1 セットしかなくても、かご等に入れ全班に回すと全員が実物を触ることが出来る。 ・班活動の記入欄は、班の回答と理由を書くのではなく、個人活動で誰が何をどのような理由で選択したか、という意見交換の結果を書く方が良い。
MY 選択の観点 BEST3 〈活動 2〉	<ul style="list-style-type: none"> ・どこで使う何を何のために欲しいかは、「今〇〇(どこ)で使う〇〇(何)を〇〇(何のために)欲しいので」という文章の穴埋めではなく、記入の枠だけを設け、欲しいものと何のためにほしいかの記述にすると書きやすい。 ・本時で使用した選択の観点から選ぶようにすると、本時の授業が生かされる。
パワーポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の補足説明で使用するのではなく、授業の導入で選択の観点と共に提示することで、環境の視点も持ちながらその後の活動が出来る。
新たな追加点	<ul style="list-style-type: none"> ・活動だけでなく知識を問う部分も必要である。ワークシートの最後に選択の観点を問う一問一答やクイズのようなものを設定するのも良いのではないか。

表 6 より、特に活動 1 で、班活動に関する改善点が多く出された。班活動では 1 つの回答を決定することより、お互いの意見共有から観点多様性に触れることを重視した活動にする必要がある。

3.3 授業者によって観察された学習者の反応

(1) 導入

冒頭の問い「欲しい物の種類が沢山あったら何を比較して 1 つを選ぶか」に対し、授業参加者は価格や安さを重視していた。しかし、【学習問題】の提示により、使いやすさや安全性等の観点の存在も明確化され、その重要性を再認識できていたように観察された。

(2) 場面に合ったシャープペンシルを選ぶ〈活動 1〉

本活動では、シャープペンシルの実物提示により、情報シートと実物の感触や使いやすさを照らし合わせながら観察や判断、選択をしていた。実際の使い心地は情報シートだけでは分からないため、より詳細な比較・検討を行うには、実物の提示は有効であると考える。班活動では、3 名それぞれが発表した後、再度全員が実物を触りながら、他者の意見を検討したり、その意見に対し自分はどうか等の意見交換をしていた。このように、活発な再検討と共に、他者の意見を尊重しながら活動する姿を見ることが出来た。

(3) MY 選択の観点 BEST3 〈活動 2〉

MY 選択の前にシャープペンシル選択を行い、商品選択の観点や選び方を理解していたため、比較的スムーズに活動が進んだように思う。自分が欲しいものの選択前に、疑似的に特定の商品選択の観点を考える展開は、より深い理解とその定着を促すと推察された。

4. 改善案

自由討議で出された意見を基に改善案を検討した。実践の分析結果や学習者との自由討議を基に、より適切に選択の観点を理解し、また多様な価値観の広がりをもたすべく、選択の観点の提示方法及び班活動の内容の改善に向け、以下 4 点を修正することにした。

- (1) 商品選択では環境への視点も欠かせないため、導入で図 3 を提示し、選択の観点に環境への配慮を追加する。また、図 4 の内容は情報シートに書き加え、環境意識も持ちながら活動が出来るようにする。
- (2) 活動 1 では、班の選択を求めるのではなく、個人の選択に関する意見共有を行うこととし、ワークシートにはどの場面で誰が何をどのような理由で選択したかの記入欄を設ける。
- (3) 活動 2 では、場面設定を自分なりの言葉で記入できるよう、記入欄と書くべき内容のみ示し、書き方に自由度を持たせる。また選択の観点の選定では、本学習内容を生かし、授業で扱った選択の観点から選ぶこととする。
- (4) ふり返りでは、授業のふり返りを記述するだけでなく、選択の観点に関する穴埋め問題を追加することにより、本授業の基礎的事項の定着を図る。

5. まとめ

本研究は、商品選択における選択の観点の拡大と判断力育成を目指したものである。実生活との結びつきを持たせながら思考や行動変容を促すべく、身近なものを教材として設定し、また、他者との意見共有を通して、価値観や観点の多様性への気づきが得られる授業開発を試みた。

シャープペンシルを選択する活動では、同じ場面を提示しても、人によってその選択に違いが出た。このように、種類が多様で、比較部分が多い物を題材にすると、生徒の意思決定も多様になり、様々な考え方に触れることが出来る授業となると言える。また、シャ

ープペンシルは生徒が日々手にするものであり、商品選択や使用場面のイメージがしやすいことから、授業後の行動変容にも良い影響を与えることが出来ると考える。

また、個人活動だけでなく、班活動も取り入れたことで、多数の目で商品を再検討し、多角的に商品を比較する活動を促したと言えよう。さらに実物と情報シート両方の提示による観察は、実際の感触と基本情報を照合せながら、より適切な商品選択を行うことに繋がったと考えられる。MY 選択の観点 BEST3 の活動では、疑似的な場面における選択を行った後であったこともあり、着目すべき点を押さえつつ、自分なりの選択眼を提示することが出来ていた。自分の場合を考える前に、疑似的に商品選択を経験し、多様な観点到に触れたことで、より一層自分自身の観点が明確になるため、疑似体験は有効であると言える。

6. 今後の課題

本実践の授業参加者は学部3年生3名のみであったため、班活動や班の意思決定は比較的にスムーズに進んだように思う。しかし実際のクラスで授業を行う場合は、中学生対象であり、且つ班の数や班員も多くなることから、余裕を持った時間配分が重要である。また、今回は ICT 活用として補足説明をパワーポイントで行ったが、余裕のある授業展開に向け、教材の提示や班活動にさらに ICT 活用を取り入れたり、書きやすくまとめやすいワークシートにする等の工夫・改善が必要である。

現在は 2020 年に発生した世界規模の感染症拡大を受け、遠隔授業の必要性が高まってきている。このような状況を鑑み、本授業を遠隔で実施する場合は、対面授業と同等の学びを得ることが出来るよう、どこの家にもあるごく身近なものを教材としたり、家庭学習と繋がるような意見交換を主とした班活動をより積極的に取り入れるなど、教材の選定や活動内容の再検討が必要である。

文献

菱村佳子, 2017, 中学校家庭科における消費者の自立をめざした「消費者の権利と責任」に関する授業実践, 藤女子大学 QOL 研究所紀要, 12(1), pp.77-81

坂本有芳, 速水多佳子, 山下遥, 山手峻, 重久麻衣, 2017, 小学校家庭科における消費生活領域の授業開発: 商品選択と計画的な購入, 鳴門教育大学授業実践研究: 学部・大学院の授業改善をめざして, 16, pp.107-114

シェイファー実緒, 中山節子, 久保桂子, 2018, 自らの消費行動に焦点をあてた家庭科の消費環境学習, 千葉大学教育学部研究紀要, 66(2), pp.127-132

消費者庁, 2018, 消費者教育の推進に関する基本的な方針, https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/consumer_education/basic_policy/ (accessed 2020.9.24)

山下綾子, 重川純子, 2019, 小学校家庭科における商品選択の観点を実感し理解する授業, 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 17, pp.25-31

(2020 年 9 月 24 日 受付)